

第10回宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成27年9月29日（火） 10：00 - 12：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、鎌田部会長代理、下村委員、白地委員、中須賀委員、中村委員、松尾委員、薬師寺委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 政府側

中村宇宙戦略室審議官、松井宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、高見宇宙戦略室参事官、奥野宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 平成28年度概算要求における宇宙関係予算について

資料1「平成28年度概算要求における宇宙開発利用関係予算について（省庁別集計）」に基づき内閣府から説明を行った。

(2) 宇宙産業・科学技術基盤に関する工程表の改訂について

資料2「宇宙基本計画工程表改訂に向けた進め方」及び資料3「宇宙基本計画工程表改訂における方向性」に基づき内閣府から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。（ ）：質問・意見等 （ ）：回答）

（資料3に「情報ポータルを設置等の検討を行い、」とあるが、）情報ポータルには、公開情報から公開する範囲を限定すべき情報まで、様々な情報が集約されるのか。

これからの議論にもよるが、公開する範囲を限定する必要がある情報もあると考える。

工程表の改訂についてのパブリックコメントでは、厳しい意見が寄せられる可能性もある。そうした厳しい意見にもきちんとは対応していくことが必要。

(3) 宇宙産業・科学技術基盤に関する工程表のフォローアップ

資料4「次期技術試験衛星の開発に関する検討状況について」に基づき総務省及び文部科学省から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。（ ）：質問・意見等 （ ）：回答）

静止軌道に人工衛星を配置するためには、ロケットによる輸送に加えて人工衛星自身が増速する必要があり、人工衛星側に負担がかかっている。この負担を軽減するため、ロケット側も並行して研究開発を進めるべき。

次期技術試験衛星を通じて獲得した技術により、国内だけではなく世界の通信放送衛星市場の需要に対応することを目指すのか。

次期技術試験衛星の打ち上げ後、年2機のペースで受注を獲得することを目指しているが、我が国の通信放送衛星の需要だけではこれを満たすことは出来ず、国際受注を獲得することが不可欠である。世界各国の企業と競争し、国際受注

を獲得するためには、掲げられている技術を出来るだけ早期に獲得する必要があり、効率的に研究開発を進めたい。

世界各国の企業と競争していくためには、継続的に新しい技術を開発していく必要がある。今回の次期技術試験衛星の検討に当たっては、有識者や関係企業等を集めた検討会を実施したが、こうした検討会は今後も継続していくのか。有識者や関係企業等との意見交換等は今後も継続して実施したい。

5G等の地上系ネットワークとも連携して、全体として良いシステムとするべき。また、今後の新しい技術に対応するために、例えばセンサー単体の開発や国際宇宙ステーションでの宇宙実証等、人工衛星による実証以外の手法も活用し、絶えず研究開発を進めるべき。

(4) 射場の在り方に関する検討について

資料5「射場の在り方に関する検討について」に基づき内閣府から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。()：質問・意見等)

抗たん性の観点からだけではなく、海外からのロケット打ち上げ受注を促進するための産業振興の観点等、様々な観点から検討を進めるべき。

(5) 宇宙システム海外展開タスクフォースについて

資料6「宇宙システム海外展開タスクフォース作業部会リスト」に基づき内閣府から説明を行った。

(6) その他

宇宙法制の検討状況について内閣府から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。()：質問・意見等)

例えばロケットの打ち上げの許認可の場合であれば、許認可が必要な範囲を最小化する、既に許可を得たロケットを改修して打ち上げる際は申請する部分を改修した部分に絞る等、現場の声を取り入れて、効率的な運用ができるような法制とするべき。

以 上